

コロナとクーデターが変えた私の人生

シュンレイレイピュー

人間である限り、変化は避けられないもの
です。私もこれまでの人生でさまざまな変化
に向き合ってきました。その中でも、私の人
生を大きく変えた出来事が二つあります。

一つ目は、2020年に起きた新型コロナ
の流行です。私は2019年3月に高校を卒
業し、12月からヤンゴンにある情報工学の
大学に進学し、大学の寮で生活していました。
進学して4ヶ月後、1年生前期試験の2日前
にヤンゴンで初めてコロナの感染者が見つが
り、私たちの生活は一変しました。

このニュースを見た後、家族と離れて一人
で暮らしていた私は、不安で勉強する気にも
なれませんでした。友人たちと「ここから出
られなかつたらどうする?」「自分の町に帰
れなかつたら?」と不安な想像ばかりしてい
ました。その時、大学から「前期試験を無期
限延期とする」という発表が出ました。

私は親に迎えに来てもらおうと考えましたが、もう夜遅くになっていたので、「朝になったら電話しよう」と思って寝ました。しかし、親はニュースを見て私を心配し、夜のうちに家を出てヤンゴンに向かってくれていました。朝5時ごろ、「今向かっている」と連絡があり、私も「早く荷物を片付けなければならぬ」と思い、荷造りを始めました。そして午後4時ごろ、親が寮に到着しました。その時、みんなは「これはただの短い休みだ」と思っていたので、みんなに長く戻れなくなるとは思っていませんでした。友達の中には、服をハンガーにかけたまま残していった子もいました。私も大学の制服やお皿などは部屋に置いておこうと思っていました。でも母が「全部持っていくときをさい」と言ったので、すべてを持って行くことになりました。今思い返すと、本当に持つときによかったと思います。なぜなら、あの日は私がその寮で暮らした最後の日になったからです。

私の大学は情報工学の大学だったので、コロナの時期にも新しいウェブサイトを作り、そこに授業の動画を載せてくれました。そのため、大学に通うことはできませんでしたが、授業は続けていました。毎週提出課題もあり、休みのはずなのに、家から大学に通っているような感じでした。それで、コロナの感染者がだんだん減り、「もうすぐ大学も再開するだろう」と希望を持っていた時、2021年2月1日に誰も予想していなかった出来事、つまり私の人生を変えた二つ目の出来事、軍によるクーデターが起きました。そのため、コロナの時期でも続けていた大学の授業も仕方なく中止されることになってしまいました。そのことが私の夢だけではなく、ミャンマーの多くの若者たちの夢を奪ったと言っても過言ではありません。

その前の日、誰も「明日からミャンマーの暗い日々が始まる」とは思わず、みんな普通のように仕事や日常のことをしていました。

り見えないうことがあります。

クーデターが起こって数日後、政府職員たちは「軍隊の下では働けない」、学生たちも「軍隊の下では勉強したくない」と思い、公民的不服従運動という活動に参加しました。

私もこの活動に参加したため、軍の支配下にある大学には進学せず、それまで全く考えたこともなかった「留学」という道を決断しました。

世界は常に変化しているのだから、これからまた新たな変化に直面するかもしれません。どんな変化が起こるかは分かりませんが、その時の状況に応じて、自分にとって最も適切な道を選び、何か方法を見つけて前に進まなければなりません。起こっていることすべてに意味がありますから、私たちも「なぜ私にこんなことが起こるのか」と考えるのではなく、「すべては最善のために起こっている」と受け入れれば、自分の人生に対する不満も減り、前向きに楽しく生きられるようになるでしょう。